

受験生の 50%以下しか解けない 差がつく入試問題 英語

改訂版単行本- 2016/11/2 旺文社(編集) 864 円

内容紹介

各都道府県の教育委員会が発表している「設問別正答率データ」をもとに、受験生の 50%以下しか正解しなかった問題を集めた画期的な一冊。

解けると差がつく問題を収録しているので、時間の無駄なく、効率よく学習できます。

出版社からのコメント

なるほど、これは差がつく! と担当編集の私も納得しています。本書に取り組むことで、みんなとの「差がつく」ポイントがはっきり分かることでしょう。本書の問題を克服したとき、学習を続けていく上での基盤が出来上がったことを感じられると思います。特に長文読解と英作文の問題には確かな実力が身につくはずですよ。



2016/11/11 筆者記

旧版は 2010 年 8 月 20 日に発行されている。その後の 5~6 年分のデータをもとに新たに編集されていると予想される。英語検定 3 級が「中学校卒業程度の学力を見る」とある。公立高校入試問題の誤答の傾向とともに共通するのは英語の「後置修飾」構造から起因している誤答であると考えている。本書はまだ手元にないが、「各都道府県の教育委員会が発表している『設問別正答率データ』をもとに」する分析作業は現場の中学校教師では過労死の一因となるであろう。しかし、同一都道府県での問題分析を続けることは可能であり、またそれなりに面白い。英作文など予想が的中することがあるのである。本書をもとに奉職されている都道府県入試問題をさらに深く研究され且つ現場の様々な要求のひとつに答える一助となるかもしれない。